

産業医学Ⅵ

(治療と職業生活の両立支援)

【Occupational Health Ⅵ】

担当責任者 就学・就労支援センターセンター長

ねらい

産業医として従業員の健康管理を行うに当たって、疾病(症状)についての十分な知識と経験を有することが不可欠である。本科目では産業現場における事例(症例)を題材として、疾患の予防、診断、治療、社会復帰について総合的に学習することを目的とする。

学修目標

1. 労働者において有訴率、罹患率、有症率の高い症状、疾病を挙げることができる。(Ⅱ-4～8,Ⅱ-11,Ⅱ-12,Ⅲ-1)
2. 各疾患(症状)の原因、症候、病態の基本的事項を述べることができる。(Ⅱ-1,Ⅱ-3～8,Ⅱ-11,Ⅱ-12)
3. 各疾患の診断、治療、予後が説明できる。(Ⅱ-5～8,Ⅱ-11,Ⅱ-12)
4. 各疾患(症状)の予防(一次予防、二次予防、三次予防)について説明できる。(Ⅰ-3,Ⅱ-1～8,Ⅱ-11,Ⅱ-12,Ⅲ-1,Ⅲ-4,Ⅲ-5)
5. 疾患(症状)を有する労働者の就労管理について説明できる。(Ⅰ-3,Ⅱ-4,Ⅱ-6,Ⅱ-8,Ⅱ-11,Ⅱ-12,Ⅲ-1～5,Ⅳ-11)

事前事後学習の方法

1. シラバスに記載されている授業項目について、参考書などで事前に予習しておくこと。
2. 配布された講義テキストを熟読して講義内容の復習をすること。

成績評価方法・基準

出欠状況を加味し、総合的に判断する。

○教科書

特に指定しない。

○参考書

騒音性難聴に関わるすべての人のためのQ&A(一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会産業・環境保健委員会編)

https://ibarakis.johas.go.jp/wp/wp-content/uploads/2018/11/souon_20181128c.pdf

年月日	曜日	時限	授 業 項 目 (内 容)	コアカリ項目				担 当 者
				第1層	第2層	第3層	第4層	
R7.7.9	水	1・2	職業性肺疾患・胸膜疾患・感染対策	SO	01	04	03	田原 正浩 (呼吸器内科学)
7.9	水	3・4	産業保健領域での画像診断 ～定期・特殊健康診断から”がん検診”まで～	SO	01	04	02	草野 涼 (放射線科学 学外)
7.9	水	5・6	労働眼科	SO	01	04	03	奥 一真 (眼科学)
7.9	水	7・8	循環器疾患と職業・ストレス	SO	01	04	03	尾上 武志 (第2内科学)
7.10	木	1・2	職業性神経疾患	SO	01	04	03	岡田 和将 (脳神経内科・心療内科)
7.10	木	3・4	職業性関連胸部悪性腫瘍	SO	01	04	03	田中 文啓 (第2外科学)
7.10	木	5・6	職業性皮膚疾患	SO	01	04	03	磯田 英華 (皮膚科学 学外)
7.10	木	7・8	脳卒中の治療と仕事の両立支援	SO	01	04	01	佐伯 寛 (リハビリテーション医学)
7.11	金	1・2	糖尿病労働者の健康管理	SO	01	01	03	新生 忠司 (第1内科学 学外)
7.11	金	3・4	労働と消化器疾患 ～産業医の役割～	SO	01	04	03	浅海 洋 (第3内科学 学外)
7.11	金	5	両立支援にかかる産業医活動①	SO	01	04	03	林 剛司 (衛生学 学外)
7.11	金	6	両立支援にかかる産業医活動②	SO	01	04	03	山本 修一郎 (衛生学 学外)
7.11	金	7・8	熱中症 有機溶媒中毒など	SO	01	04	04	堀下 貴文 (麻酔科学)
7.14	月	1・2	職場のメンタルヘルス	SO	01	04	03	新開 隆弘 (精神医学)
7.14	月	3・4	労働災害による四肢外傷	SO	01	04	03	善家 雄吉 (整形外科)
7.14	月	5・6	騒音性難聴	SO	01	04	03	河口 倫太郎 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
7.14	月	7・8	職業性関連泌尿器科疾患	SO	01	04	03	真鍋 憲幸 (泌尿器科学 学外)
7.15	火	1・2	職場で遭遇する外科的疾患と処置	SO	01	04	03	井上 譲 (第1外科学)
7.15	火	3・4	女性労働者の健康管理	SO	01	04	01	松浦 祐介 (広域・発達看護学)